

## 平成30年度・労働安全衛生大会を開催

一般社団法人埼玉県環境産業振興協会は、平成30年9月27日、さいたま共済会館において労働安全衛生大会を開催し、昨年大会を大きく上回る180名が参加しました。

県内では、産業廃棄物処理業における労働災害が多発（平成29年全国ワースト1）しており、労働災害防止活動の推進と安全衛生意識の高揚を図るため実施したものです。

大会は、小林増雄会長から「災害の発生は、従業員の生命、会社の存続にもかかわる。経営者から従業員まで、一体となって安全な職場づくりに取り組みましょう。」と開会の挨拶がありました。続いて、来賓の埼玉県産業廃棄物指導課の酒井辰夫課長から「県も立入検査を通じて業界の労働安全を指導していく。」と挨拶がありました。

続いて、業界の労働安全意識の高揚を図るために募集した労働安全衛生標語の優秀作品表彰が行われ、最優秀賞の大田久美子氏と優秀賞3名に対して小林会長から賞状、記念品が授与されました。

続いて、この大会を企画・運営した労働安全体制整備事業委員会担当の高澤副会長から、協会としての取組や大会開催の趣旨について説明がありました。

講演では、埼玉労働局の富樫講師から「産業廃棄物処理業における労働災害の発生状況と安全衛生」について、労働安全衛生コンサルタントの二階堂久講師から「施設や収集運搬での危険を体感して、労災を防止しよう！」と題する講演がありました。事故現場などの映像が数多く盛り込まれた講演は、初めて大会に参加した人にも分かりやすく印象に残るものでした。

会員企業の優れた取組の事例発表では、アサヒプリテック(株)の江原隆文氏、野崎興業(株)の増田邦明氏から発表がありました。また、今回はミドリ安全(株)の防災用具の展示や賛助会員による展示が行われました。

最後に、高澤副会長と参加者一同で安全宣言の唱和を力強く行い、安全に取り組む決意を新たにして散会となりました。

会場全体



会長あいさつ

